

但馬産真正クモ類分布資料IV ハグモ属 (*Dictyna*) について

本庄四郎

但馬に産する真正クモ類について、筆者はこれまで主として山岳、平野など地域主体の報告を行ってきた(1975, 1976, 1985)。しかしながら、今回より分類単位(科、属など)ごとにそれらの但馬における分布状況、生態について調査結果、知見などを述べていきたい。

そこで、今回はハグモ属 *Dictyna* について報告する。ハグモ属は、体長 2.5 ~ 5.0mmの小形の篩板類である。植物葉面や建物にボロ網とか天幕網と称される網をはる。

網の構造は二重で、昆虫を絡め獲る捕獲網(通常の吐糸器官から出された糸に加え、板より吐糸され第4跗節にある毛櫛によってすかれる“すき糸”が絡みついて粘りけをもつ)と隠れ場所(粘性のないきめ細かい網でできたトンネル)の二つの要素からなっている(本庄, 1977)。

但馬で確認されたハグモ属

1. *Dictyna arundinacea* (Linne) アシハグモ
2. *D. felis* Bös. et Str. ネコハグモ
3. *D. foliicola* Bös. et Str. ヒナハグモ

日本にはこのほか、カギハグモ *D. uncinata* とチャボハグモ *D. procerula* の二種類が記録されている。しかし、後者は原記載以来採集報告がない(八木沼, 1986)。カギハグモは但馬でもみつかれる可能性が大きい。また、氷ノ山や鳥取県大山などには朱赤色のハグモが生息しているが、種名は未決定である。

ハグモ類は本来、植物の葉面や茎などに網を張るものと思われるが、人間社会の影響を受けて人家の軒下、壁、板塀、窓わくなどにも生活空間を広げている。これらの空間は人間の作った“からっぽのニッチ”であり、ハグモ類はうまくこれを利用しているようである。

ハグモ類の生態については興味深い点が多く、現在調査・研究を進めていると

ころである。ハグモ類の基本的な情報（生活史，化性，習性など）は極めて不十分であり，また，その調査・研究も困難である．というのは，その網構造から観察がしにくいことが，一つの原因である．さきに述べたように，“すき糸”による捕獲網にかかった獲物を，クモがかみつき食べた残骸（carcass）や，ほこりなどが付着して，クモの姿を見えにくくしている．網は数日おきに新しい“すき糸”の帯が付加されるので拡大していく．クモは中の隠れ場所からトンネルを通って行き来する．網の表面にはところどころ穴があいている．獲物がかかると，この穴（gate）からとびでてくるわけである．

表 1. ハグモ属各種の生息場所および既知分布地

種 名	生 息 場 所	分 布 地
アシハグモ	モチノキ，サツキなどの葉面，茎と葉柄の間	豊岡市山王山
ネコハグモ	サンゴジュ，サツキの葉面，人家の窓わく，壁，板塀，軒下など	豊岡市（新堂，福田，庄境，立野，京町，八条小学校） 日高町（府中，鶴岡） 浜坂町，竹野町和田
ヒナハグモ	サンゴジュ，サクラ，クリなどの葉面，人家の壁，板塀，窓わく	竹野町（児童館，役場，和田の家屋）

ハグモ類の獲物の認知はもっぱら振動によるようである．すぐ隣に獲物がいても静止しているかぎり攻撃しない．獲物の多くはユスリカ類であり，季節によりウンカ，カゲロウなど他の昆虫も対象となる．

ハグモ類の天敵は不明であるが，人家壁面に生息するヒナハグモの場合，シラヒゲハエトリ *Menemerus confusus* がその可能性をもっている．

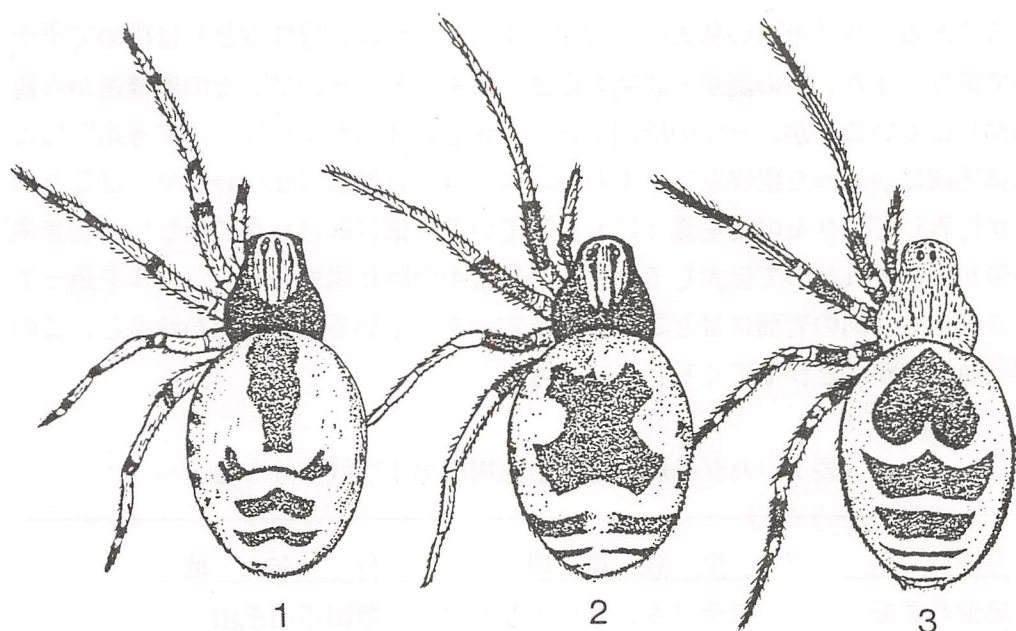


図1. ハグモ属各種の背面図
1. アシハグモ 2. ヒナハグモ 3. ネコハグモ

ハグモ類の比較生態について今後データを増やしていかなければならないが、特に生活史に基盤をすえて行動、社会関係を調べたい。

参考文献

- 本庄四郎、1975. 但馬産真正クモ類分布資料Ⅰ，兵庫県自然保護協会但馬支部研究紀要1(2)：1-29.
- 本庄四郎、1976. 但馬産真正クモ類分布資料Ⅱ，兵庫県自然保護協会但馬支部研究紀要2(1)：1-32.
- 本庄四郎、1977. ヒナハグモの社会行動 *Acta arachnol.*, 27(sp.no.)：213-219.
- 本庄四郎、1985. 但馬産真正クモ類分布資料Ⅲ，*IRATSUME*, 8/9：98-111.
- 八木沼健夫、1986. 原色日本クモ類図鑑 i - x x iv + 1-305, pls. 1-64, 保育社，大阪.